

既参加青年の主な活動 (日本青年国際交流機構 (IYEO) としての共通活動)

昭和時代の活動

- 昭和58年～60年 オーストラリア「カウラ募金」
- 昭和58年 西サモア、トンガとの音楽交流
- 昭和57年～昭和62年 マザー・テレサ施設支援活動
- 昭和56年～ボイス・フォーラムの開催
- 昭和47年ビルマの子供たちにエンピツを贈る運動
- 昭和46年韓国身障者施設支援「善意の一坪運動」

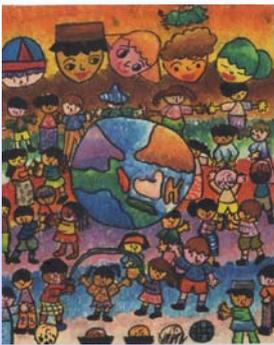
マザー・テレサ施設支援活動 (昭和57～62年)



第14回「青年の船」事業がインドのカルカッタ(現コルカタ)にあるマザー・テレサ施設を課題別視察で訪問したのをきっかけとして始められた支援活動。活動のねらいは、単なる物資の支援活動ではなく、マザー・テレサ施設のシスター及び協力者たちの社会奉仕活動を紹介していく中で、ボランティアの精神とは何であるのかを考え、学ぶことでした。

第16、18、20回の「青年の船」事業で継続してインドのボンベイに寄付金と品物が送られ、その後は、IYEOが日本のマザー・テレサ施設からフィリピンのトンドにある施設への支援物資の輸送協力依頼を受けて、それらの輸送に係わる諸手続きを行いました。

アジア子供絵画展(平成6年)



SSEAYPインターナショナル第7回総会が日本で開催されるに当たり、「国際家族年」を記念して開催しました。

東京で開催した後全国を巡回しました。ASEAN各国でも展示会を開催しました。教育・文化という身近な観点からASEANを紹介することを目的としました。

絵は「東南アジア青年の船」事業参加青年により収集され、その中には、フィリピンのストリートチルドレンの絵も含まれていました。



"We are a big Family" Widtya Putri インドネシア

阪神・淡路大震災ボランティア (平成7年)

IYEO大阪のメンバーが中心となり、避難所を一か所約1か月間支援しました。

避難所に派遣するボランティアは全国から募りましたが、日程を調整したうえでIYEOのメンバーが継続的に支援できる方式としました。

「東南アジア青年の船」事業 25周年記念エッセイコンテスト(平成10年)



エッセイを発表する、
インドネシア人の
エッセイ優勝者

「東南アジア青年の船」事業の25周年を記念して、SSEAYPインターナショナルが行ったエッセイコンテストに参加しました。

共通テーマは「21世紀のアジアのリーダーシップ」で、青年の部(大学生及び30才までの青年)と少年の部(中学生・高校生)を設け、全国IYEOから応募を募りました。

青年の部、少年の部ともに多数の応募があり、それぞれの部門で優秀者各1名と佳作を数点選出しました。

優秀者は第25回「東南アジア青年の船」事業の実施の際に日本に招待されました。

グローバル・フォト・コンテスト (平成16～20年)



062007 (A treasure for our future generations)
I Pure Smiles!
Erika Yamano (Japan)

平成16年3月に「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議で話し合われた「芸術イベント」を、具体化させ、「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)の共通活動として行ったのが始まり。

IYEOが取りまとめ、海外への広報及び写真集約については、「世界青年の船」事業事後活動組織(The Ship for World Youth Alumni Association, SWYAA)が協力しています。

第1回は「食のある風景」、第2回は「ストリート・マーケット」、第3回は「微笑みと笑い」、第4回は「次の世代に遺したいもの」をテーマとしました。

各テーマの優秀作品約30点は、グローバル・フォト・パネルとして国内のIYEO支部や世界各国の事後活動組織へ貸し出され、イベントや展示会や説明会等で活用されています。なお、このプロジェクトは、IYEO設立20周年の記念事業の1つとしても位置づけられました。